

2017 年度事業報告

I. 2017 年度事業方針

食文化研究者の発掘・育成と研究の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2017 年度事業報告

1. 食の文化フォーラム

(1)2017 年度食の文化フォーラム開催：年間テーマ「にのいの時代」

コーディネーター：伏木亨(龍谷大), 総合司会：半田章二(株CDI)

第 1 回セッション「フレーバーの機能」(2017/6)

第 2 回セッション「香りと食生活」(2017/9)

第 3 回セッション「食品と開発」(2018/3)

(2) 2016 年度食の文化フォーラム開催記録本「甘みの文化」刊行(2017/9)

2. 食の文化シンポジウム

(1) 人間文化研究機構共催シンポジウム(2018/1)テーマ：「江戸書物から読み解く庶民の食べ物と生活」

① 構成 基調講演 「史料が語る江戸の食」／江原絢子

トークセッション ロバート・キャンベル(国文学研究資料館長)

山本和明(国文学研究資料館特任教授)

磯田道史(国際日本文化研究センター教授)、江原絢子

参加者：220 名

② 国文学研究資料館と味の素の文化センターの連携により当財団保有の江戸書物をデジタル化した記念のシンポジウム。江戸時代の書物を紐解き、その豊かな食生活と生活文化、当時の知恵を専門家より解説頂き、好評を得た。

(2)食の文化フォーラムシンポジウム(8/5)テーマ：「甘みの文化」

① 構成 基調講演1 甘みの生理学 伏木亨 龍谷大学

基調講演2 調理での甘みの機能とその役割 川崎寛也 味の素(株)

鼎談 コーディネーター 南直人 京都橘大学

パネリスト／上記 2 名、モーリスグレック(トロント大学)

② 参加者 70 名

③ 対象者を若手研究者、学生と食に関心のある方を中心に集客。専門分野の視点で活発な質疑を実施。

3. 食の文化研究助成

食文化研究の裾野を広げるべく、若手研究者の育成に向けて助成を再開。

① 募集期間(7/1～8/15)合計 44 件の応募受付。

② 選考委員へ書類審査(9/5～9/30)、選考委員会を開催(11/12)し助成候補 8 名選定。

理事会(12/1)において、選考結果に基づき助成対象者 8 名及び助成金の支出、(総額 7 百万円)を決定。

③ 贈呈式開催(3/6)、採択者の助成手続き終了。4 月より研究開始。

4. 食の文化ライブラリー

1)公開図書館実績

- ・ 来館者数 5,730 人 (対前年同期比 101.3%)
- ・ 貸出人数 2,330 人 (対前年同期比 97.2%)
- ・ 貸出冊数 7,290 冊 (対前年同期比 94.5%)

2)第一回食の文化ライブラリー委員会開催(5/24)

委員: 青柳英治(明治大学教授), 林賢紀(国際農林水産業研究センター),安井大輔(明治学院大学)

- 【主な内容】 ① HP の図書検索機能を使いやすくする為の改善にむけたアドバイス
② HP の書誌情報(現行タイトルのみ)の拡充(目次、要旨等)に向けたアドバイス
③ 食文化関連書籍情報のセンター化に向けた他の図書館等との連携の進め方等

3)貴重書デジタル化

財団が保有する貴重書を HP で発信し多くの方が閲覧できることを目指し、明治以降の所蔵貴重書のデジタル化を開始(2018 年度以降も作業継続)。

5. 食の文化誌「vesta」

①2017 年度発行実績

- 106 号 酒と食 高田公理 武庫川女子大 2017 年 5 月
- 107 号 海の野菜を食べるー海藻の食文化 今田節子ノートルダム清心女子大 2017 年 7 月
- 108 号 肉食と人 野林厚志 国立民族博物館 2017 年 11 月
- 109 号 つけもの文化 中澤弥子 長野県短期大学 2018 年 2 月

- ②他事業との更なる連動強化:食の文化フォーラム企画委員会等と連携して、事業間のテーマ連動を図る。(機関誌として事業紹介等積極的に活用する)

6. 食の文化ウェブ

- ① 利用者が目的とする図書・情報にアクセスし易くすることを狙いとしてホームページ改定プロジェクトを立ち上げる。2018 年 4 月リニューアルを目標にコンセプト、全体構成を作成し、制作会社選定を行い、改定業務実施。
- ② メールマガジン 購読者の拡大・誘引を継続。
- ③ SNS 食文化情報の更新頻度向上により情報鮮度を維持し幅広く広報活動を実施。

以上